



わたしと聖句2

ローマの信徒への手紙 8:38-39

■英語科講師 グレイ・デイヴィッド

わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

この御言葉はまだ会っていないローマにいるクリスチャンへ聖パウロが書いたメッセージです。改心した後、キリストの為のパウロの宣教の生活は危険や苦難で満ちていました。パウロは石を投げつけられて、鞭打たれて、苦労されました。彼は旅をし、川の難、盗賊の難、同胞(ユダヤ人)からの難、異邦人からの難を受けて、難舟したことが三度ありました。これなのに、パウロは神様を忘れず、神様は彼と共に

にいると確信していました。
私はこの聖句を暗記して、ロンドンにある大学へ歩いて行く時によく自分に言い聞かせていました。この御言葉は私にとって非常な励ました。そして、それはキリスト・イエスによって神の愛が離れないことを信じているすべての人々をも励ますことがあります。

OCJC卒業記念駅伝大会 主催：OCJC EKIDEN実行委員会 に参加しよう！

毎年3月上旬にOCJC卒業記念駅伝大会が行われていますが、ご存じでしょうか。今年は第11回を迎えることになります。これは2年次の卒業を祝し、卒業後の活躍を祈念して行われるもので、OCJC EKIDENと共に走ることで、走ることの楽しさや一体感・爽快感を味わうことができます。

学生、教職員のチームだけでなく近隣の学校や銀行、郵便局などの友情出場もあります。さらに、全コースをトリムマラソンとして走る皆さんもいます。一汗かいだ後は歌、踊り、空手、スピーチ、表彰式などの楽しい余興を含む懇親会があり、毎年好評を博しています。この駅伝、トリムマラソン、懇親会は今ではキリ短の恒例の行事となりました。あなたも参加しませんか。



駅伝コースの案内



当日のプログラムは次の通り

日 時：2000年3月11日(土曜日)
集 合：午後1時 スタート：午後2時30分
ゴール：午後4時30分

懇親会：午後5時～



沖縄キリスト教短期大学

2000年3月1日発行

沖縄県西原町字翁長777

☎(098)946-1240 ☎(098)946-1241

編集・発行

沖縄キリスト教短期大学総務企画課

URL <http://www.ocjc.ac.jp/>

学報 第46号



記事内容

★キャンパス・ライフ

宗教委員の活動を通して……保坂麻希子

2年間で得たもの……宜保久美子

フィリピンで考えたこと……大城良美

キリ短での2年間……仲宗根理樹

★がんばっています 卒業生

えっ!イギリスでウチナーグチ?…エジンバラ大学大学院 新垣友子

風が吹く空間…沖縄キリスト教センター 又吉京子

気づき…サマリア人病院 新里栄子

★留学生紹介……莫 華明

★2000年度前期行事予定

★寄付感謝報告

★わたしと聖句2…英語科講師 グレイ・デイヴィッド

★OCJC卒業記念駅伝大会



卒業生に贈る言葉

学長 神山繁実

卒業生の皆さん、ご父母の皆さん、おめでとうございます。この不況の時代に、大学で教育を受けることは、大変厳しいものがあったと思います。何人かの学友たちは、経済的理由のために、在学を断念せざるを得ませんでした。幸いにして皆さんは所定の課程を了えて、目指す資格を取り、希望に燃えて、就職に、ある人はさらに上を目指して進学することになりました。私たちはあなた方を社会に送り出すに当たって、次のようなイエスの言葉を思わずにはおられません。「行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、オオカミの群れに小羊を送り込むようなものだ。」この言葉は、社会の厳しさを指していると理解できます。現在の日本の状況は大変厳しいものがあります。しかし、この厳しさもいつまでも続くものではなく、霧がはれるように良い時期が必ずくると確信しています。

さて、皆さんは、沖縄キリスト教短期大学で何を学ばれたでしょうか。本学が目指している教育の目標はグローバルな視野をもって平和を造りだす者となり、神と人々に仕える人になる、という教えにあります。一言で言えば、平和の使者になることであると言えます。平和という概念は、個人的にも社会的にも、また肉体的にも精神的にも、隣人と共に欠けたところが無く、満ち足りている状態を意味します。これは、おおよそ現実離れのした概念である、と言えることでしょう。現実は決してそのようなものではありません。現代の世界情勢は、第二の千年紀を迎ても、以前と変わりなく戦争の危機にさらされ、人間の欲望は際限の無い自然破壊を繰り返すという悲しむべき歩みを続けています。

これからの新しい社会の形成は、古い人々によってではなく、新しい人々の知性と感性によって、より良く築かれ得ると思います。「新しいぶどう酒は新しい革袋に」というイエスの教えの通りです。

そこで、卒業生の皆さんにいくつかの事を勧めると共にお願いをしたいと思います。聖書の教える重要な事は、どのような問題にぶつかっても、逃げることなく誠実に問題に対処していただきたい。皆さんは困難に遭遇したときに、その問題をどのように処理すべきかという解決の仕方について必要な知識と知恵を身に付けていると思います。どんな問題に会っても誠実に忍耐強く対処するなら

ば神が味方してくださることは、間違いありません。次に、現代は生涯学習の時代だと言われています。学校を卒業してしまえば学習はそれで終わりということではなく、人が生きている限り、学び続けなければならないことを意味しています。丁度、深海を回遊している魚が泳ぐことを止めるときに死を意味していることよく似ていると思います。学びを続けるためには、それ相当の必要性と必然性を感じなければなりません。さらに、絶えず知的好奇心と向上心を持ち続け、学ぶ喜び、新しい真理の発見の喜びを経験する必要があります。学びを通して皆さんは精神的に豊かに生きることができます。これからも、沖縄キリスト教短期大学が皆さんのが生涯学習のベースになり、人間性豊かな生き方 (Quality of Life) を共に享受できるようになりたいと願っています。

次に、自分の立つ場所をしっかりと把握していただきたい。つまり、自分が誰の立場に立って考え、行動しているかということを問い合わせることあります。イエスの立場は、常に虐げられている者、弱い者と共にあることを望み、そのように歩まれました。聖書の教えにしたがって歩むとは、イエスと共に人生を歩むことを意味します。人生の歩みの中で自分の視座と視点の位置をはっきりさせておくことは、大切なことです。特に、沖縄が置かれてきた歴史的・社会的な位置をしっかりと見据え、自らのアイデンティティをしっかりと確立して下さい。基地が産業である、と言うような誤った考え方から脱却して、精神的自立と経済的自立とを図れる社会構造の構築に皆さんのがい力とエネルギーを注いで下さい。最後にお願いしたいことは、皆さんのが学んだ沖縄キリスト教短期大学が、尚、継続的に社会的に、また、国際的に大きく貢献できるようにサポートしていただきたい。母校を心から愛し、母校の発展のために皆さん力を貸して下さい。母校の発展はひとえに皆さんのが愛校心にかかっています。今後も、皆さんのが良い友と出会い、良い書物と出会い、人間性豊かな人生を送られるよう心から願っています。教職員は、皆さんに誇りをもって社会に送り出したいと思います。皆さんのがからの人生の歩みの上に神の豊かな恵みと祝福がありますように祈っています。God bless you!

(かみやま・しげみ)



同時通訳の意義

■ 英語科教授 山里恵子

りません。これができるようになるには長い経験が必要です。このように、同通の訓練においては、話し手と聞き手に対する献身的な態度が養われます。何しろ、「良く聞かなくてはならない。」という気持ちから出発し、「しっかり伝えなくてはならない。」という気持ちで懸命に同通することになるからだと言えます。

第二の視点として社会との関わりを見てみましょう。同通を必要とするのは、主に国際会議です。発言と同時に通訳され、反論なり賛成論なりが即座に返って来ることが期待されています。それこそ社会を動かす大きな働きに貢献しているのです。責任も大変重いものとなっています。国際会議以外では、演説、講演、ニュース等において同通が活躍します。オリジナルの発話と同時に通訳がなされるというのは、熱が冷めず、ホットなままに、時間的ロスがなく理解することが可能になるということです。時間が貴重な今日の社会においては、正に強力なスケットではありませんか。

以上のように、同通は、その訓練を受けることにより個人的な教養ある人間として成長する機会を得ることが出来ると共に社会へも大いに貢献し得る能力も養うことが出来ます。勿論、長年の努力が必要なことは言うまでもありません。

最後に、自分の語学力を伸ばされたい方、または、教養を豊かにし社会へ貢献したいと思われている方、是非、同通にチャレンジしてみて下さい。沖縄キリスト教短期大学では、皆様の受講を歓迎致します。

(やまと・けいこ)





きやんぱす



“学長”先島地区表敬訪問

1999年10月1日就任した神山繁實学長、早速10月1日から2日かけて、宮古、八重山地区の各高校を表敬訪問した。

下地玄毅教務部長と各学科長・入試課長を伴い、就任の挨拶と入試懇談会への参加を兼ねての表敬訪問であった。遠隔地でこれまで、情報交換の少ない状況下にあった。

今回の表敬訪問で先島地区の各高校との連携が深まった。

入試懇談会は、1998年度までは本学でのみ開催していた。1999年度からは、北部地域と宮古・八重山両地区を加え、年3回の開催になった。これにより、本学の教育理念がより幅広い地域に理解されることが期待される。



森上史朗教授特別講演会

「改訂 幼稚園教育要領・保育所保育指針」と保育実践を考える

日本の幼稚教育学を代表する青山学院大学教授の森上史朗氏の講演会が2000年1月31日(月)に開催された。保育科の学生への卒業プレゼントとして特別に企画された保育科主催の講演会である。

2000年4月から、「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」が10年ぶりに改訂になる。森上氏は、文部省の専門委員として実際に改訂に携わっており、わかりやすく説得力のある、そして、人間性のつたわってくる内容であった。保育の面白さを喻えて、「たいへんなことがあっておもしろいのである」と、さらりと言った言葉は、乳幼児との関わりの重大さと達成観のある保育という仕事がみえてきた。

卒業を目前にした2年生にとって、保育科の学びとしての総決算となる講演会であった。



ニュース

高校生英語弁論大会

1位 那霸商 玉城貴行君

高校生英語弁論大会が1999年12月11日(土)、本短大チャペルにおいて開催された。県内高校生の英語での考え方や意見発表の能力向上を目的とした本大会は11回を向かえた。

今回は25校からの応募があった。テープと原稿による第1次審査を通過した13名が本大会に出場した。1位の玉城君は、留学体験を交えながら、世界各地の紛争や貧困の犠牲になる子供たちを幸せにするには何をするべきかをスピーチした。

入賞者5名の氏名、出身校、テーマは次の通り

- * 1位 玉城貴行 那霸商業高校 3年
「When We Celebrate Children, We Celebrate Life
(子供は私たちの明るい未来)」
- * 2位 パンニヤ・ペロニカ 浦添商業高校 3年
「Take a Look Within (真実を見つめて)」
- * 3位 上原真子 知念高校 3年
「Fighting Together (乗り越えよう共に苦しみを)」
- * 学長賞 照屋真莉子 宮古高校 2年
「An Intellectual Game (知的ゲーム)」
- * 審査委員長賞 上原明子 開邦高校 3年
「Cares to All by 2050 (祖父の死を通じて考えたこと)」



“外から沖縄を見てみよう” 日銀那霸支店長沼波正氏 特別講演会

社会情勢をみずえた学生に対する適格な注文は、これから厳しい社会に飛び立っていくこうとする学生達への大いなる示唆となつたであろう。



オピニオン・リーダーとして、沖縄県の経済界で積極的に発言し、活躍している日本銀行那霸支店長沼波正氏を招いての講演会が1999年12月9日(木)にあった。テーマは「羽ばたけ21世紀にむけて一沖縄の若者に望むこと」。

学生部主催の本講演会は、学生のための就職講演会の一環であるが、教職員も参加し、会場に立ち見ができるほどの盛況ぶりであった。

沖縄大好き人間であると言われる沼波氏は、本土と沖縄の違いを分析しつつ、経済・世相・文化・若者と多岐にわたるメッセージは刺激的であった。

特に、県内学生の8割が公務員や大企業への就職希望という安定指向に対し、幻想だと指摘した。自らの競争力を高め、チャレンジする精神こそ社会が必要とする人材である事を訴えた。



英語科入学定員50名増の認可おりる

本短大は1991年、文部省より「期間を付した入学定員増」（いわゆる臨定）の認可を受けた。それで、英語科の入学定員200名が250名となった。

この臨時定員増は、1992年までの18才人口の急増期における対応策として実施されたもので、1999年度末には、解消されるべきものとなっていた。

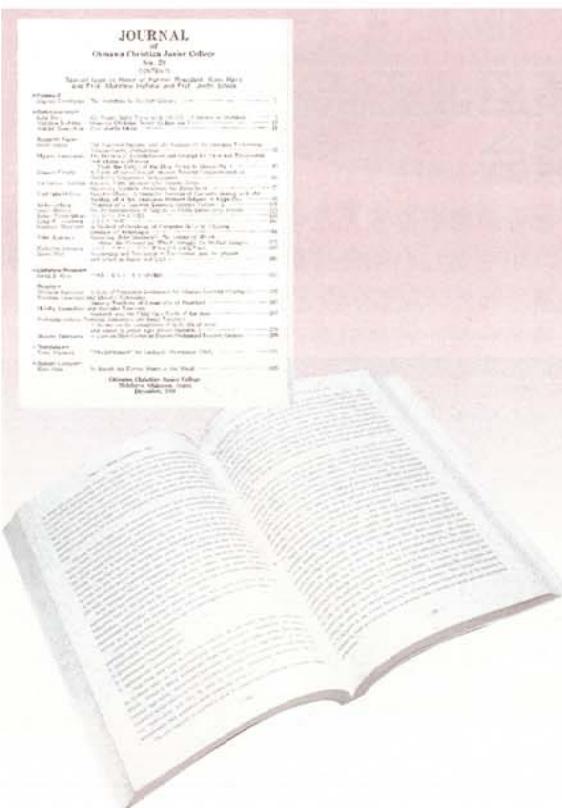
その後の文部省の方針は、入学定員の減少に伴う受験生への影響や、教育機会の確保、また私学

経営への影響などを考慮し、2005年までの段階的解消と共に、臨時定員増のうちの50%までは恒常的定員としてくみ込むことが適切であると提唱した。それにより、本短大は50人の定員増の申請をした。

1999年12月22日付をもって、変更時期2000年4月1日として認可された。これで、本短大英語科の入学定員は250名となる。

沖縄キリスト教短期大学紀要第28号を発行

1999年度『沖縄キリスト教短期大学紀要』を12月に発行した。今回は、原喜美前学長、そして稻福盛輝・石田穣一両特任教授退任記念号ということで、多彩な内容と多彩な執筆者で、読みごたえある特集号となった。内容は次の通り。



- 巻頭言**
神山繁實 21世紀への旅立ち
- 回顧**
原喜美 沖縄キリスト教短期大学と共に過ごした8年間（回顧と感謝）
稻城真紀子 私とキリスト教学院との出会い
石田穣一先生のこと
- 原著**
石田穣一 沖縄県行政オブズマンの実務と課題
神山美代子 沖縄の保育施設の概念と形成の過程
喜友名静子 幼児に認知されたコンピテンスと幼児の言語能力
大城りえ・嘉教朝子 男女大学生の親準備状態
石橋由美・金城智子
大城宣武 上原明子
上原武子
島袋忠
島袋義雄
Craig K. Jacobsen 宮国薰子
新川右好 Katherine Johnson
鵜飼経世
文献レビュー David S. Gray
An Introduction to Mediaeval English Drama
- 資料**
神里博武 大学におけるボランティア学習プログラムの開発に関する一考察(1)
神里博武・山城真紀子 幼稚園における5歳児保育問題
山城真紀子・神里博武 地域の保育のニーズに応えるために幼稚園の取り組むべき課題についての調査研究
大城宣武・中村完 棚原健次
棚原健次
竹沢昌子 男性保育者へのまなざし～保育現場における男性保育者に関する意識調査より～
- 翻訳**
新川右好 『母班』あるいは『班』
- 講演録**
原喜美 「恒久平和を求めて—終わりなき旅」

26年間変わらず、キャラバス内のどこかで大声で笑い、話し、振舞つて、つとんきよしくしてきました漢那先生。2000年3月31日で退職します。26年間の思いを綴つてもらいました。

キリ短在職26年6ヶ月をふり返つて

総合教育系教授（兼図書館長・情報センター長）

漢那憲治

して飲み屋の入り口を潜ったのを懐かしく思い出す。

キリ短では、最初から知り合いがいたということも手伝って、スムーズに働くことができました。いい学生や良き同僚に恵まれて、共同研究の良さを学んだのも、読書の楽しさを身につけたのも、お酒を楽しく飲む技術を学んだのも、管理職の術を会得したのも、マラソンで自信をつけさせてもらったのも、すべてここキリ短でした。いくら感謝してもしきれないくらいです。今、強く印象に残っているのは、教・職員全員で一丸となって、西原移転を成功させたことでした。

在職期間中はほとんど部署長を兼務していたので、定年まで残り10年を自分の専門である図書館情報学の教育・研究に打ちこみたいという一心から移る決心をしました。身勝手をお許し下さい。いまさらこの年で、新しい所で苦労する奴がいるかと叱責を頂戴しましたが、やはり生涯学習と生涯発達にかけて新天地で頑張るつもりです。ただ心残りは、今年度は図書館関係の大きな行事が二つ沖縄で開催されることで、図書館の職員に大きな負担を掛けたまま去ることです。でも、今の図書館の職員ならきっと乗り切っていくこと信じています。

最後に、総合教育系をはじめ、教・職員の皆様には大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。21世紀にむけて新しいキリ短を創造していくことが出来ますように、教・職員一同が力を一つに結集して、四年制大学設置の成就に邁進されんことを祈念して、辞任の言葉といたします。





就職セミナー

世は今、不況の嵐でふきあれている。企業は、自らの体力維持のためリストラに勢だし、新卒採用を手控えるなど、人員削減策が学生たちの就職活動を直撃している。そんな中、キリ短の就職課は元気である。あの手この手で、学生の就職率アップに力をいれている。今回は、就職セミナーを紹介したい。

学生の就職に対する意識の高揚を目的として始まった「就職セミナー」は、今年度で3回を終えた。単なる就職のためのセミナーというだけでなく「人生」と「職業」という両輪を基本に、自己のライフステージの確立とまで位置づけた、宿泊研修セミナーである。

1999年度は、11月11日(木)から12日(金)の日程で、県立糸満青年の家において行なった。内容は1日目、オリエンテーションに始まり、基調講演・マナー講習・S P I 対策試験・フリートーキング。2日目に模擬面接と、徹底した就職のための集中セミナーである。

基調講演は、アポロ事務機販売(株)の取締役管理部長伊藤永一氏、演題は「自己変革を目指して」。マナー講習は、本短大非常勤講師でもある葵インターナショナル・スクール代表の若松喜久美氏。模擬面接とフリートーキングに、ソフト

ウェア技術(株)社長町田肇氏。エム・ソフト(株)社長小暮恭一氏。沖縄コンピュータ販売(株)社長小渡玲氏。宮城紙工(株)社長宮城通治氏と実業界、経済界の第一線で活躍しておられる方々を迎えての講演、指導である。

学生と講師の先生方が真剣にぶつかり合い、日頃の授業では得られない貴重な体験となっている。



英語科1年
我如古 千夏

「就職セミナーどうしようか?あまり行きたくないねー。」入学して7か月、学生生活はまだ始まつたばかりで、これからだと思っていた私にとって「就職」という言葉はまだ早いとしか考えられませんでした。しかし、心のどこかに来年は就職活動が始まるのに、自分がまだどんな道に進みたいのか決まってないというあせりがあったため、このセミナーに参加しました。

セミナーでは、講師の先生方の講演や、マナー講習、S P I 対策試験などがあり、全てが初めての体験でした。フリートーキングでは、1人ひとりが「就職」についての悩みや課題、夢を語り合いました。就職への不安を抱えているのは自分だけではなく、みんな同じ気持ちだとわかり、安心したと同時に、ほとんどなかつた就職への关心が深まってきた。また、履歴書を書くのにはとても苦労しました。みんな夜遅くまで目をこすりながらがんばって書きました。そして、一番印象に残っているのが、模擬面接です。



緊張と質問の難しさにとまどい、ほとんど答えることができず、答えたとしても、自分で自分が何を言っているのかわからなくてパニックするほどでした。これを体験して、甘く考えていた私は、就職する難しさ、きびしさを知らされました。

このセミナーに参加し、就職へむけて多くのことを学ぶことができ、本当に良かったと思っています。今後、自分と向き合い、これから先の人生を楽しく過ごして行けるようにがんばっていきたいです。



キャンパスライフ



宗教委員の活動を通して

■英語科2年
保坂麻希子

ノンクリスチヤンである私の中で『聖書』という世界へ踏み込む戸惑いは確かにあった。あの時は、自分がそこから会得できることよりも、自分への回りの偏見に躊躇していたと思う。しかし、台湾フレンドシップキャンプでの経験が私にこの世界の視野を広げてくれた。

いくつかの活動の中で私は、沢山の人に会い、そして知らなかった沢山のことについてきた。贅沢すぎる毎日の生活で私は、与えられた物や嬉しかった事に対して感謝する事を忘れ、自分や回りに対する不満を先に言っている自分に気づく事ができた。あの星野富弘さんも、彼が障害者となってから「とうとうイエス・キリスト

という神に頼りたくなる程弱い人間になってしまったのかと見られるのが嫌だった。」と言っている。私にも、そういう気持ちはあった。でもまず、素直に嬉しかった事や与えられた物に感謝し、そして、不満や悩みの解決法を問う。この素直な気持ちを持つには勇気がいると思われる。不満が多いのは感謝する事を知らないし、自分の事しかわかつてないからである。私という人間は一人しかいないが、私の回りにいる私を支えている人達の事を考えずに生きる事は罪になると思う。

台湾で出会った布農族の言葉にはMi-Hu-Mi-Sang (ミフミサン) = 「よく生きる」という言葉がある。明日の不満や過去の嘆きを吐くのではなく、今日の一日に感謝する。という意味だと思う。これからの私の将来も、迷いや立ち止まる事があっても、全てに感謝する事は忘れず、Mi-Hu-Mi-Sangでありたい。



2年間で得たもの

■保育科2年
宜保久美子

早いもので、1998年に入学した私も、今年の3月で卒業です。今、振り返って2年前の私と今の私を比べたとき、様々ななかたちで自分が変化したことを感じます。それは保育に対する考え方であり、自分の能力を知ったことであり、それらを含むすべての考え方です。

私がこの短大を選んだのはとても単純な理由でした。子どもが好きで、何よりも歌ったり踊ったりピアノを弾いたりするのが好きな私は、「ここなら、自分が求めているものが、きっとそろっている」と思い入学しました。しかし、そんな安易な気持ちで入学した私の考えを3つの実習が打ち消しました。

施設実習、保育実習、教育実習、これらの実習は私に保育の難しさ、働くことの大変さを改めて教えてくれました。実習中、すべてを投げ出して逃げたい、と思うこともあります。

ました。思うようにいかず泣いたこともたくさんありました。その経験は、今まで“好きだ”という気持ちと、ただの“自信”からなりたっていた私のすべてを変えました。ただ好きだというだけでは保育はできないということ。しかし、今それらの苦しい経験を思い起こすと、あれだけのことが乗り越えられたのだから、これから来るつらいことは何でもない、と思えるような強い自分がありました。そして、3つの実習が教えてくれたのはそれだけではありません。苦しい経験をしても、実習以前にも増して子どもと接するのが好きな自分に気づきました。

今までのつらい状況を乗り越えてこられたのは、周りの友達のおかげであります。私は、このキリ短でたくさんの友達と出会い、そしてキリ短祭を通して団結し、一つのことを成功させる喜びを知りました。そんな心の支えがあったからこそ今の強くなれた自分がいるのだと思います。

私はまだ勉強不足です。やりたいこともたくさんあります。成人をむかえ、1人の大人としての自覚ももたなければなりません。

長い人生の中で、これからもつらいこと、苦しいこと、いろんなことに出会うでしょう。そういったつまづくときこそがチャンスであり、このキリ短で得た経験を活かせるときなのだと思います。



フィリピンで考えたこと

■保育科2年
大城良美

「フィリピンとはどんな国だろう?」という小さな好奇心から始まり、私は、思いきってこの「フィリピン・フレンドシップ・キャンプ」に参加した。初めての海外。学びに行くというよりも正直、旅行気分でいっぱいだった。だが、フィリピンに着き、バスで空港を出るとすぐに、物乞いをしている子どもに出会った。私のうきうきしていた旅行気分は一瞬で消え、「なぜ、こんな小さな子どもまでもが物乞いをするのだろう。」と、初めて目にする光景に私は、とてもやり切れない思いでいっぱいになった。

そして、何度かほかの行き先でこのような子ども達を目にした。ここに来る前に、このような子ども達が多くいるというのは耳にはしていたが、実際、

目にするとかなりショックな光景だった。フィリピンは貧富の差がとても激しいため、このようなストリートチルドレンが出てくるという。だが、フィリピンはとても活気があり、出会う人々みんな笑顔である。もし、この貧富の差が縮まればフィリピンはもっとすてきな国になるだろう。

一週間という短い期間だったが、フィリピンの歴史を学び、子ども達との交流、各大学めぐり、貴重な体験となった大洪水、さまざまな方々との出会いなどを通してフィリピンの雰囲気、良さを直に感じることができた。そして、何よりもストリートチルドレンについて深く、本気で考えさせられた。ただ楽しかったというだけで終わっては何の意味もない。考えることにより、より良いキャンプになったと思う。また、私はこのキャンプに参加したことでいい意味で視野が大きく広がった。さらに、さまざまな人達との出会いを通して、自分自身、何かが変わった気がする。

これからも、この先、この経験を忘れず何かに生かせるようにし、また自分自身も視野を広げていき、成長していくようにいろいろなことに積極的にチャレンジしていきたい。



キリ短での2年間

■英語科2年
仲宗根理樹

1998年の4月に42期生として、この短大に入学して、もう2年の歳月が、過ぎようとしています。長いようで、あっという間だったこの2年、様々な出来事がありました。20名の教職コースに入れたこと、行事を通して、エイサーや沖縄民謡を楽しめた事、空手という趣味が、沖縄県全大学選手権で、キリ短代表で出場したこと。他にも、たくさん貴重な体験をしました。特に2年生になって、学生会役員として、教職コースと同時に2つの大きな仕事を抱えることとなり、両立するのが大変でした。しかし、学生会役員を経験することによって、以前とは2倍も3倍も成長したような気がします。人間関係、マネー

ジメント、そして各行事運営（七夕祭、キリ短祭）にあたる責任の重さを、充分に学ぶことが出来ました。又、学生会活動を通して、大学職員の方々や先生方とも、交流が出来た。たまに年輩の方に、「学生とは、思えない」と言われたこともあります。特に就職課の与儀課長には、入学当初よりお世話になり、同世代の少ないこの短大で、彼の存在は、かなり大きかった。又キリ短の先生方は、情が厚く、優しく、厳しいけれど、すばらしい先生方でした。途中いくつかのクラスの成績を落としましたが、親身なご指導下さいました。本当に心から感謝しています。もう卒業を目前にして、名残惜しい様な気がします。2年間、キリ短で経験した事は、これから自分の人生の中で、何らかの形で役に立つと思います。本当に有難うキリ短。そして、仲良くしてくれた同級生、先輩や後輩の皆様 Thak you!



やんばつまわ!

1957年創立以来、8000人余りの卒業生を世に送り出して
どなたにも、伝統の“キリ短スピリツツ”が脈々と受け継が
待致します。



え? イギリスでウチナーグチ?

エジンバラ大学大学院
言語学研究科博士課程
新垣友子

イギリスに住んで1年半になる。イギリスと言つてもここはスコットランドのエジンバラ。スコットランドといえば、思い浮かぶのはスコッチウイスキー、バグパイプ、そしてキルト等だろう。確かにスコットランド人は酒や音楽をこよなく愛し、それを文化としている。今日は、スコットランド人と同じく酒も音楽も大好きなウチナーンチュ(私のちょっと変わった生活について紹介させていただきたい。

私のイギリス暮らしは到着して翌日救急車で運ばれて入院することから始まった。私はそこで、英語圏に来た事を疑わせるすごいスコットランドなまりの洗礼を受けることになる。地元の看護婦が何を言っているのか分からぬ。問題は私の英語力だけではなさうである。本土からの観光客が沖縄に来て現地の方言と強烈ななまりに呆然とするのとよく似ている。ロンドンから来た観光客でさえ、スコティッシュ・アクセントに舌を巻くのだ。エジンバラのなまりによく慣れたと思っても、高速を1時間ほど北上して違う町に行くとそのわざかな自信は粉々に碎かれる。それがまた面白いといえば面白い。最近では言葉だけに頼らない独特的のコミュニケーション方法を確立した。まず相手の目を見つめ、細かい表情も見逃さず、五感のみならず第六感までも使うのだ。超能力(勘?)とも言えよう。今では必要最低限のコミュニケーションに困る事はほとんどない(電話は例外)。恐らく相手の顔が見えないからだろう。帰国したら

ユタにスカウトされるかもしれない。

スコットランド人はとにかく人なつっこくて、親切だ。それに何といつても酒好き。町中パブだけで、しかも昼から飲んでいる人の多い事! 大学構内にまで、パブが3,4軒あるからすごい。パブでのライブ演奏も多く、バグパイプやギター、バイオリンなどの音色が聞こえ始めると客も待ってましたと一緒に歌い出し、踊り出す。老若男女問わず、誰でも楽しめるのだ。キリ短の学食の隅にもイギリス式のパブがあったら最高だろう。

今更言っても説得力がないが、私はここにパブ巡りに来ているわけではない。勉強するために渡英したのである。留学ともいえよう。キリ短時代からバンドを組んで勉強は二の次だった私が何故、卒業してから10年も経つのに勉強しているのか周りの人(キリ短の先生方も含む)は不思議らしい。しかも無謀にも大学院に入ってしまった。専攻は言語学。といふと何だかすごいことをやっているように思われるかもしれないが、現在の最新の言語理論に反論し、新しい理論を打ち立てる、なんてそんなかっこいいことは(まだ)していない。何とウチナーグチの研究をしているのである。それがやる気だけが取り柄の私が頑張れる理由である。でも方言の研究を英語でするのはやはり大変。しかも私の場合、乳飲み子を抱えての入学だったので、最初は地獄だった。今はこの大学で言語学の理論や方法を学び、休みは沖縄に帰省し、老人ホームやデイケアを飛び回って論文を書く為の調査をしている。おかげでお年寄りの友達がたくさんできた。地味な活動だが、やり甲斐があるし面白い。その分苦労も多いが、人と違う事をしているのだ、ナンギは覚悟の上である。

最後にかっこいいメッセージでも添えたいが、私が偉そうに言える事は何もないのだ。結局私がキリ短時代に得たものは、打たれ強く樂觀的な精神かもしれない。子供がいようが諦めず、思いこみと超能力をフル活用し、因太く生きるのもまた楽しいものだ。やりたい事があるので行動に踏み切れない人がいたら、スコットランドでウチナーグチを研究しているちょっと変わった卒業生がいることを思い出して欲しい。とにかくやったが勝ちなのだ! もともとは夫についたはずだが夫は春に先に帰国し、私と息子はここに残る事になる。こんな私が今後どんな風に乗り切るか見物である。

(32期 英語科卒業)

卒業生!



きました。各分野でパワフルに活躍している卒業生ですが、
かれているのが感じられます。これから益々のご活躍を期



風が吹く空間
沖縄キリスト教センター
ぎのわんセミナーハウス
又吉京子

「キリ短」が「学院」と呼ばれていた頃、短大の門をくぐり、その門を出た一人です。何言つてるのよ! 「学院」の時も、現在も門(ゲート)などないと反論されそうです。実にその通りです。では、短大に何があったのかなと目を瞑り想をめぐらし思考すればするほど短大は「空間」であったなあと思う。それも、広い広い「空間」ではなく、とても小さな「空間」でした。バス停まで授業開始のチャイムが聞こえ。教室の入り口から後方の出口まで10歩でも足を運べば抜け出せる。事務室のカウンターに立つと、後方の壁が迫ってきて、目の前の職員が消えてしまったような錯覚を覚え。校庭は休み時間の間に端から端まで2往復できる程の小さい「空間」でした。

しかし、2年間の学びと時を提供してくれた小さな「空間」は、よう様な風が吹いていました。キリスト教の信仰と思想、沖縄の歴史と文化。激動する社会の出来事。女性として保育者の視点。もちろん18歳の生活体験と知識ではその風を掴むには限界がありました。でも、その後の暮らしの中で、繰り返し繰り返しその風に出会っています。「空間」の中で出会った人々、思想、文化を通して語り合ったこと、考えたこと、発見したことを、恐れず否と言える主体性の確立を「空間」は目指していたように思われます。

風を生み出す「空間」を提供したいと、ぎのわんセミナーハウスでプログラムを担当しております。セミナーハウスは2001年(21世紀)に設立15年目を迎えます。アジアや青年との交流、そして沖縄の歴史や文化を伝えることを通じて、平和を創造する主体的出会いの場を目指して業務を進めております。

「学院」の小さな「空間」で受けた風が、短大、そして四年生大学を目指す21世紀の「時空」にどのような風を紡ぎ出すのか楽しみです。また、卒業生のひとりとして風と風を結ぶ働きができる程のことを願っております。
(13期 保育科卒業)



気づき
サマリア人病院
新里栄子

「光陰矢のごとし」キリ短を卒業して、10年が立ちました。思いの深いこの年に原稿を書く機会を与えられたことを嬉しく思います。

精神科看護に係わって30年余りが立ちました。社会では、充分に理解されず偏見で見られがちな職場です。精神科に働いていると言うと、大方、返ってくる言葉は決まっています。「暴力的・あばれる・不潔・怖くない?」と、そんな質問の多いなかでの勤めです。しかし、それこそ偏見であり、普段は至って穏やかな看護業務にたずさわっているのです。

この30年という途中で、仕事を少しだけ割引してもらいました。大学を卒業するという大切な経験をさせてもらいました。本来がいろんなことに挑戦するのが好きなたちですが、キリ短という学びの場に身をおくことができたことは、自分にとっても大きな出来事でした。精神科看護の現場と大学という、全く違う環境を同時に体験できたことは、それまでの意識を大変革し、ものごとを多角的にみるということに気づかされました。

大学の礼拝や宗教的各行事、そして幼児教育など、キリスト教的学びや考え方には、それまでの仕事だけでは得られなかった心の豊かさを教えられました。それが、今、精神看護の現場でどれほど役に立っているか言いあらわせるものではありません。

ふと、立ち止まって全く違う世界を覗いて見る。生きていくうえで大切なことと気づかされます。それは、人生観を換えてしまうほどのインパクトがあります。エネルギーのいることではあります。それは言いしれない喜びを体験することです。
(32期 保育科卒業)



留学生紹介

中国と沖縄の友好交流を思う

中国福建省出身

英語科1年 莫 華明

中国福建省の英語教師の私は見聞を広げたいと考え、2年半前に沖縄にきた。中国の留学生には、公費の留学生と私費の留学生の二種類がいる。不幸な私は、私費の留学生だ。アルバイトもしながら、勉強しなければならない。

日本語学校で1年間日本語の勉強をした。それから、英語の好きな私は、キリシタンにはアメリカとイギリスの先生がおおいことを知り、入ることを決心した。今、英語科1年生だ。

沖縄人の印象は、人を褒めるのが上手だということだ。“すごい”や“きれい”や“えらい”や“かっこいい”という言葉がよく耳に入る。昔、沖縄は琉球王国と呼ばれていた。琉球王国は礼儀之邦を世界中に誇っていた。だから、人を褒めることなども、沖縄人の礼儀なのだろうか？その言われていることはほんとうの事かどうか、私はよく考えてしまう。

沖縄は小さい島ですが、心やさしい人々ときれ

いな空と海がある。よい気候は、勉強もしやすく住みやすい。それから、沖縄と私の古里福建省は昔から深い関係がある。600年前に福建省から36姓が海を渡って沖縄にきた。それで、沖縄の文化習慣と福建省はよく似ている。私は沖縄を古里のように感じている。

でも、やっぱり国が違うから、違う所もいっぱいある。どうして、若者は奇妙な洋服を着て町中にならぶれているのか。女性たちは化粧するのに時間かかるのか。どうして黒い髪を黄ろくするのか。自分の文化を捨てたいのか私はよく考える。

私は、中国の教師だから中国の教育制度はよく知っている。日本にきてから、日本の大学にも入っている。これからは、日本の小学校と中学校と高校の教育の様子を見学したい。そうするとふたつの教育制度を比較できる。日本の教育のよい部分を習って中国に帰り、いい教師になりたい。一面、中国の教育のよい部分も、沖縄に紹介したい。そうすることが中国と沖縄の友好交流に役立つと思う。この理想のためにもっと頑張っていきたい。

2000年度前期行事予定4月1日～9月30日

4月1日(土) 3日(月)	入学式(第44回) 新入生オリエンテーション 登録オリエンテーション	8月1日(火) 1日(火)～4日(金) 水泳実習(保1)
4日(火) 5日(水)	1年次単位登録 就職ガイダンス(2年次)	7日(月)～9日(水) サマー聖書キャンプ
6日(木)	講義開始	中旬 同時通訳集中講座(基礎・上級)
6日(木)～12日(木)	登録調整期間	14日(月)～23日(水) 学校休業日
9日(日)	開学記念日 TOEFL- ITP TEST	18日(金)～28日(月) フレンドシップキャンプ(台湾)
5月10日(木)～12日(金)	新入生オリエンテーションキャンプ 実習園訪問(保2)	9月3日(日)～24日(日) 海外研修(MSU)
11日(木)～12日(金)	集中就職セミナー	2日(土)～9日(土) フィリピンフレンドシップ研修
22日(月)	スポーツデー	4日(土)～22日(金) 幼稚園教育実習
6月5日(月)～9日(金)	キリスト教週間	4日(月) 特別聴講生面接(県内大学単位互換)
12日(月)～24日(土)	保育実習1(保2)	11日(月) 卒業判定教授会
26日(月)～7月8日(土)	補講期間(放課後)	11日(月)～22日(金) 中学校教育実習
7月6日(木)	全学集会	20日(水) 15:00 卒業式(10月入学生外国人留学生等)
10日(月)～14日(金)	放送大学後期受講者受付	21日(木) 一般科目等履修生(面接)
22日(土)	講義終了	22日(金) 成績通知・登録資料配付
24日(月)～29日(土)	期末テスト期間	25日(月) オリエンテーション登録(10月入学者・外国人科目等履修生)
夏季休業期間8月1日～9月30日		2年次特別学生登録(教職コース・帰国生・社会人等)



寄付感謝報告

募金へのご協力ありがとうございます。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

指定寄付(1999年8月1日から2000年1月31日まで)

個人 4,905,946円 団体 3,386,373円 合計 8,292,319円

四年制大学設置資金

【父母】

安里 健一	10,000
古堅 哲也	20,000
古謝 明功	5,000
幸喜 昌太郎	20,000
糸村 吉子	5,000
祝嶺 春武	3,000
照屋 林淳	5,000
上地 政一	50,000
新垣 聖典	20,000
長堂 哲二	10,000
桃原 健二	30,000
普久原 朝吉	20,000
豊見城 盛隆	10,000
國吉 恒弘	5,000
饒平名 光三	50,000
安谷屋 啓次郎	5,000
宮城 康	20,000
金城 幸男	30,000
勝連 正哉	10,000
上原 秀俊	100,000
新垣 正弘	10,000
大嶺 順一	20,000
田崎 榮	5,000
比嘉 正文	10,000
【同窓生】	
嘉手納 天子	5,000
吉田 亜希	5,000
砂川 留美子	10,000
諸見里 千代子	50,000
真喜志 康則	10,000
田村 絵梨香	10,000
田中 千里	757
島袋 一成	10,000
大城 宜太郎	150,000
仲栄眞 寿恵子	10,000
【在学生】	
長堂 可奈子	3,589
【団体】	
とわの森三愛高等学校	10,000

宗教関係

屋宜 ツル	1,833
下田 りおりえ	10,000
読谷教会 光会	13,200
キリシタン福音部/OIC教会	31,200
沖縄アピール福音センター	5,941

施設設備

富永 元順(一般)	10,000
大城 実(教職員)	120,000
漢那 憲治()	35,000
神里 博武()	25,000
柳澤 千恵子()	63,100
津波古 きくえ()	120,000
泉&やよい(同窓生)	30,000
日北米宣教協力会	104,520
キリシタン後援会	1,000,000

奨学金

松島 寛容(一般)	240,000
三協電気工業(株)	60,000
原 喜美(学内関係者)	500,000

高校生英語弁論大会

琉球放送株式会社	50,000
株式会社国際システム	30,000
沖縄電力株式会社	20,000
日本総合整美株式会社	20,000
沖縄県金融協会	60,000

その他

キリシタン同窓会	1,600,000
キリシタン後援会	300,000
大城 宜武(教職員)	60,000
大城 宜太郎(同窓生)	20,000

パイプオルガン献金

キリシタンチャペルにパイプオルガンを贈る会	81,512
島袋 喜代子(同窓生)	20,000

学内人事

退職(2000年3月31日付)

大城 実(総合教育系教授) 稲 福 盛 輝(保育科教授)

漢那 憲治(総合教育系教授) 石 田 積 一(保育科教授)